友垣

発　行
出雲市白枝町26番地
願楽寺内
龍　松　会
TEL 0853-28-1017
印　刷
㈲ナガサコ印刷
出雲市下横町350
TEL 0853-28-2408

所感

願楽寺住職　西本巧恵

今年も残すところわずかとなりました。

元旦の能登半島の地震にはじまり、天変地異ともいえる気候が局所的ではなく全国で多発しました。と同時にインフラの老朽化もあらわになり人口減少の中、人手不足も手伝い復旧の目途がなかなかつかない心配な状況になっています。ＳＤＧｓの心掛けを普及していかなければならないと思います。

さて、私の実感として多死化の傾向が進んできているように思います。四苦八苦の中で必ず浄土往生しなければなりませんが、いかに自分の生をまっとうするかを考えなければなりません。

お盆法要の講話で煩悩によって生みだされる、不平等、不公平、不条理、理不尽、不合理、不当等があり、今、世界の状況をみても前記の事象によって悲惨な状況におかれている人達が多くうまれていることです。仏教は何か善事が生まれることを期待するのではなく、そういう状況を少しでも軽くし乗り越えていけるように示唆を与える教です。

浄土真宗の聴聞もただありがたいお話を聞くのではなく、そういう心情を育んで報謝の心持をもつことが大切であると思うのです。

合　掌

神門組仏教壮年会連盟結成四十周年来たる!!

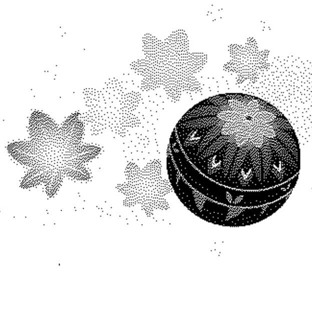
龍松会　釋　大　等

昭和六十年八月門信徒会運動の生涯聞法の一環として、神門組内の仏壮会が組織されていた五ヶ寺（願楽寺・正蓮寺・西円寺・善福寺・乗光寺）のご住職各役員のご尽力により神門組連盟が結成されました。

その後五ヶ寺（長楽寺・明顕寺・正善寺・長泉寺・真宗寺）が加わり、現在十ヶ寺で活動を行っています。壮年層は社会や家庭の中核であり聞法活動に最も疎遠になりがちな層でありますが自らの生き方を聞法により聞き開くことを最も必要とする層でもあると思います。

神門組三十ヶ寺でまだ仏教壮年会のない寺院への組連盟への参加を呼びかけ、寺院を超えての聞法活動も一層盛り上がり同盟の輪が拡がることを念じています。

結成四十周年記念行事は来年初秋頃に開催予定です。ご縁があればご参加下さい。



念仏奉仕団に参加して

金崎享一

　令和六年九月二十六日・二十七日に願楽寺の念仏奉仕団総勢二十二名（松林様を含む）の一員として参加させていただきました。

　今回で十回目の本山念仏奉仕団の参加となり、今振り返ってみますと、龍松会役員の日野一郎氏から誘われて参加した一回目（平成二十四年度）、初めて本山へお参りをし、建物の大きさにびっくり、書院拝観をして国宝の多さに又びっくりしたのを覚えています。今回も安穏殿にて参加者九団体総勢百四十八名で、北は東北山形から南は九州福岡の御門徒の方が集まり、日程を聞き御影堂での開会式の後、初めての奉仕作業は御影堂の畳の拭き掃除、その後御門主様との記念撮影・ご面接のあと、安穏殿での法話にて一日目が終了。

　宿泊は門法会館にて夕食懇談をしました。二日目は朝六時より御晨朝を阿弥陀堂（讃仏偈）・御影堂（正信偈）にて唱和し、宿に帰って朝食後二日目の開会。安穏殿で当日の日程説明をうけ、百華園の掃除のあと御抹茶接待・書院拝観、御影堂にて「お西さんの法話」を聞いた後、ふたたび安穏殿で安井稔雄さんの十五回と私（金崎）の十回の表彰を受けました。閉会式を行い解散となり、この後昼食会場の嵐山へ向かい、昼食後は歩いて天龍寺の八方にらみの龍を見学、どこから見ても睨まれているようでした。そして大谷本廟へお参りし京都を後にしました。

　一緒に参加された方々も一回目からすると、少しずつ顔ぶれも変わってきていますが、コロナ禍で中止された後は、人数も減っており、少し寂しい思いです。

　私も元気でいるうちは出来るだけ参加をしようと思っています。近くの仲間も一緒に参加してくれていますので、安心をしています。どうかこれからも奉仕団に参加されます方が、増えることを念じております。

合掌

第五十三回 願楽寺念仏奉仕団
令和六年九月二十六日

第一回 龍松会研修部 研修会報告
令和六年六月二十日開催

研修部　金築　辰明　岸　洋一

　梅雨を前にして少し涼しい風が吹いていたこの日、中殿で第一回の研修会を九名の方の参加で開催しました。

　先ず、四月二十日に大社文化プレイスうらら館で行われた「親鸞聖人御誕生八百五十年、立教開宗八百年　神門組慶讃法要」の様子を、願楽寺の檀家の方が撮影されたDVDで視聴をしました。この会は神門組傘下の各寺院挙げて事前に計画や準備をされ、龍松会からも当日十名近くが会場設営などに参加しています。

　映像の冒頭部分では、その会場設営に協力している龍松会メンバーの姿が映し出されていました。同時並行で行われていたステージ装飾や僧侶の方々による声明（しょうみょう）や雅楽のリハーサル場面も録画されていて、皆さんが会を盛り上げようとしていることが伝わってきます。この場面は、午後に行われた本番で厳かに披露され、参観された方々の心に響いていました。

　次に、近くの乗光寺で執り行われていた帰敬式の様子が映されました。帰敬式とはなじみのない言葉なので調べてみたら「浄土真宗などで、在家の者の頭に剃刀（かみそり）をあて、剃髪（ていはつ）のさまに擬して仏門に帰依した証とする儀式。おかみそり。」と分かりましたが、映像にはその様子がていねいに紹介してありました。

　録画は午後からの慶讃法要、記念法話と続きますが、時間の都合上そこで終え研修会参加者による質問や意見等へと移りました。

　先ず、ご院家さんから帰敬式について、ご門主の系統につながる寺院の住職によって執り行われることや、おかみそりに合わせ本来亡くなったときに所属寺からいただく法名をこの場で授けられることなどの説明がありました。それなら、もし機会があれば自分も生前に法名を授けてもらいたいという意見が参加者の中からありました。

　また、日常生活がコロナ禍以前に戻った今日、葬儀でしばしば流れ焼香が行われていることについて意見が出されました。流れ焼香ではなかなか哀悼の気持ちが伝えにくくて残念だということです。一方で、確かに多くなっているけれど、それはそれで定着しつつあるのではないかという現実的な見方も出されました。

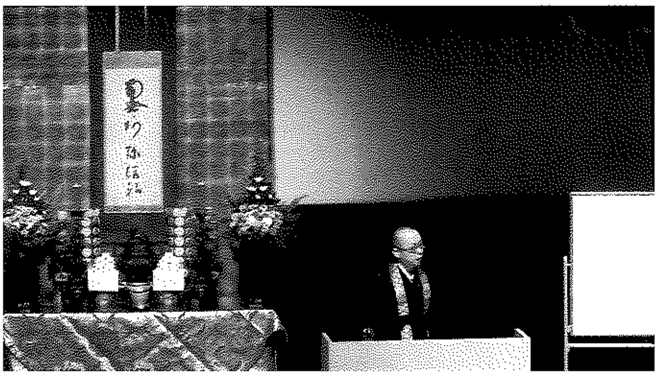
　墓じまいについても話題になりました。家の後継者がいない、子どもが県外で生活している、などの理由で墓をどうするか配偶者と話し合っているなどという意見がありました。核家族化や高齢化などの時代の流れの中で、墓じまいはどの家庭でも直面する問題であると改めて認識したところです。

　およそ一時間半あまりの研修会でしたが、ご院家さん、若院さんより丁寧に説明やアドバイスをして頂き終えることができました。

神門組親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要の開催

二〇二三年は浄土真宗宗祖親鸞聖人のご誕生八百五十年、本年二〇二四年は立教開宗八〇〇年にあたる年。その記念イベントとして神門組慶讃法要「AI時代もAMIDAといっしょ」が四月二十日(土)大社文化プレイスうらら館において開催された。（第一回龍松会研修部 研修会報告に関連記事あり）

若者に向けて情報発信を続ける「バズる住職」として有名な福岡県北九州市・永明寺住職 松崎智海氏による記念法話のほか、お寺でマルシェと題してキッチンカーを始め、念珠づくり体験や販売の出店ブースなどがあり、会場は多くの来場者にあふれた。あわせて帰敬式（おかみそり）も関連行事として開催された。願楽寺からも若院様・若坊守様をはじめ十名ほどの龍松会会員が運営のお手伝いを行った。



奉仕作業

十月二十日(日) 報恩講を前にした奉仕作業が行われた。

暖かい日々が続く中、当日は十二度ほどの肌寒い午前八時より実施され、塩冶・乙立・神西・湖陵・古志・神門地区の担当が各々作業道具を持参し清掃奉仕を行った。作業終了後は恒例の牛乳とパンを朝食にいただき解散となった。

なお、八月十一日(日)午前七時からは下横町・荒茅町・園地区の担当による盆前の清掃奉仕、十月十三日(日)午前九時からは白枝町・松寄下町担当による仏具磨きが行われた。

○担当の皆様お疲れ様でした。

あとがき

元旦早々能登半島地震に驚愕し新年がスタート。雨が降るかと思えばゲリラ豪雨や線状降水帯の発生を心配し、晴天となれば温暖化で作物の生育も心配。物価の高騰でお財布の中身も心配する日々。新総理大臣が誕生すればあっという間の解散総選挙（日本は大丈夫?）。またまた本年も心配事が絶えない年となりました。来年こそは平穏な年となることを念じてやみません。

今回も友垣五十六号のご拝読ありがとうございます。引き続き皆様のご寄稿をよろしくお願い申し上げます。

文化部　持田